

活動タイトル	CAPプログラムの地域への周知	団体名	CAPなのはな	
<p>1年間の活動 (アウトプット)の目標 (事業全体)</p>	<p>1 森田ゆり氏の講演会開催 2019年2月23日 (土) 13時～17時 アミュゼ柏プラザにて実施 2 CAPワークショップを学校・保育園等・地域で実施する。 3 メンバーの育成： 児童養護施設・児童虐待の専門職ワークである「J-CAPTAトレーナーのテクニカル・アシスタンス (以下：TA)」を受講し、スキルアップを図る。」 * TAとは、「(J-CAPTA) トレーナーによるワークショップ提供の際の技術支援」を言います。</p>		<p>■ 活動風景</p>	
<p>■ 活動報告</p> <p>(1)森田ゆり氏講演会 2019年2月23日 (土) アミュゼ柏にて開催 (広報活動) ・プレスリリース (千葉日報・東京新聞に講演会の記事が掲載される) ・行政訪問 (3か所) ・新聞・地域紙などの情報欄への掲載 (船橋よみうり・ほっとハッと通信に、CAPなのはなの活動紹介記事の掲載) ・関連団体の講演会に参加してチラシを配布した。 (講演会当日) ・柏市社会福祉協議会に会場設営のボランティア派遣をお願いした。</p> <p>(2)CAPおとなワークショップ (以下WS) 実施 子どもの人権・子どもへの暴力の正しい情報と、子どもの話を信じて聴くことを伝える。暴力の予防教育の必要性について伝えた。</p> <p>(3)CAP子どもワークショップ実施 子どもには「安心・自信・自由」の大切な権利を持っていることを伝え、大切な権利が奪われそうになったら、何が出来るか。発達年齢に応じて具体的に伝えた。</p> <p>(4)人材育成 J-CAPTAトレーナーからTAを受けて子どもやおとなCAPWSを実施</p>	<p>■ 1年間の目標に対する達成状況</p> <p>1 森田ゆり氏講演会 ・当日参加者143人(申し込みは160人) ・当初の予測をはるかに超えた参加者で、会場は満席だった。 ・満足度は「大変満足」65.5%と「満足」28.7%と満足度が高かった。 ・参加者アンケートから「CAPWSに参加経験ない人」が参加者の54%いた。 ・地域の子育て団体・子どもの権利に関する団体との関係ができ活動が広がった。 ・5月に開催した公開WSの参加につながった。(6人)</p> <p>2 CAPおとなWSの実施 6回実施。計画数10回より4回少ない実施だった。しかし、全て初めてのところでCAPWS実施できた。</p> <p>3 CAP子どもWSの実施 11回実施。全て初めてのところで実施。おとなWSだけの依頼に、子どもWSを加えて提供することもできた。</p> <p>4 人材育成 児相職員・児童養護施設職員・児童養護施設子ども3グループで実施。合計5つのWSでTAを受け実施した。</p>	<p>講演会で話す 森田ゆり氏</p>		
		<p>CAP教職員 ワークの様子</p>		
■ 1年間のまとめ	■ 事業を通じて得られたノウハウ	■ 実施した人材育成策	■ 活動成果のアピールポイント (自由記入)	
<p>1.森田ゆり氏講演会 松戸市内でおきた女子児童が連れ去られ殺害される事件をきっかけに企画した。開催前の1月、野田市内で虐待死事件が起き、講師のこれまでの経歴から今回の講演会は注目を集めた。参加者のなかで、CAPWS経験がない人が54%であった。CAPに関心を持った人が、5月開催の公開WSに6人参加した。また、研修講師として依頼を受けた。これらの取り組みにより、子ども関連団体とつながることができ、連携の幅が広がった。</p> <p>2.CAP子ども・おとなWS 今回の事業で、これまでCAPを実施していない学校・子ども園・施設でWSを実施することができた。おとなWSは教職員が特に多く、次期の子どもWSにつながった。児童養護施設子どもWSは初めての経験だったが、トレーナーのTAを受け実施した。</p>	<p>1.講演会の開催から 広報はプレスリリース・Facebookなど、新たな方法を加え行った。今後の活動や企画の広報に活かしていくために、さらに工夫が必要。行政への訪問は、今回で2回目だが、「CAP」や「CAPなのはな」の活動を伝える機会になるので、継続することと訪問できる場所を広げていきたい。</p> <p>2.人材育成 ・TAを受けることで、子どもの対応を具体的にどうするか。おとなWSを依頼先に合わせてどう内容を組み立てるか。実践のなかで学ぶことができた。初めてのところでWSを実施でき回数を重ねたこと、TAでの実践での学びの経験は、メンバーの意欲につながった。 ・CAPWSの依頼を増やしていくためには、メンバーの養成が必要である。</p>	<p>1.テクニカル・アシスタンス (TA) 5つのWSを、T A で実施できた。CAPWSは通常3人で行うことが多いが、TAでのWS実施に際しては、トレーナーとメンバー3人で実施。TAを体験できる人を増やした。ミーティングでも振り返り、それぞれの感じたことを共有した。実践を通じての学びは、その後のCAP教職員WSに活かすことができた。 メンバー各自の気づきがあり、CAPのメッセージをしっかりと届けるために、「もっとTAで学びたい」という声が出ている。</p>	<p>この1年間の活動を通じて 講演会参加者のうち「CAPWSに参加経験ない」約54%の人に、CAPの存在を伝え、CAPWSを体験したおとな約85%、子ども約92%が「他の人もCAP受講を」と回答</p>	<p>を達成しました。</p>
<p>■ 受益者の変化 (効果測定結果等)</p>				
<p>講演会参加者は、暴力に対して被害者の視点で考える必要性を知って、CAPに関心を持つ人が増えWS実施や、公開WS参加につながった。 CAPおとなWS参加者は、子どもの周囲にある暴力について知り、子どもの人権と暴力への対処法を知ることで、予防教育であるCAPの必要性を知った人が増え、その後のWS実施につながった。 CAP子どもWS参加者は、「安心して生きる権利がある」と、思える子どもが93%。権利が奪われたとき、「自分を守るためにできることがある」と、思える子どもが95.9%あった。暴力への対処法が分かり安心感につながった。</p>				

